出身地の異なる学生の集まりだから親も言葉も家庭環境も違っていた。だが皆で同じ目的に向かう点では認識が一定になる。指導のプロが週一回やってくるので「その時までに」という期限付きの達成が求められる日頃の練習。社会へ出てからも「目標」「期限」「達成」「協調性」「努力」「人間関係」、先輩後輩の序列があり言葉遣いから礼儀や気配りまで自ずと身に付けざるを得ない「上下関係」が生活環境の中に存在した。

「明治大学」の価値

また思い出にあるのは「宿泊代の節約旅行」だった。汽車賃と多少の金を持って旅に出た。最寄りの駅へ到着するとにかく目的地へ向かう。夕方になり「宿無しの学生」として困った表情で役所を訪ねる。「泊まるところがないんです」そう言って明治の学生証を見せる。「明治か」「ええ」「泊まるところがないのか。金は・・いくらもってる?」日本育英会奨学生の証しを見せ「貧乏なんです」「困ったな。ちょっと待ってろ」

何処かへ電話をかけてくれる。聞いているとこんな具合だった。「おまえ、宿直で一人だな」「明治の学生が寝るところがないらしい。宿直室に布団があるだろ。飯でも食いながら話し相手をしてやれ」「学生証もある。奨学金をもらってウソじゃない。確かだ」。こうして学校の宿直室へ。先生は大卒だった。そこでも「明治大学」の価値があった。先生が早稲田だと早明戦の会話になり、六大学野球や早慶明3大学ラグビー戦の話などで盛り上がった。飯を食い酒を飲み、夜中まで話が弾んだ。社会へ出てからのことも随分と教えられた記憶がある。これに味をしめて、山登りで飯場に泊めてもらったり、あるいは町の民家にタダで泊めてもらったりした。こんなことが通じるのも明治の先輩方のお陰だし後輩のためにも礼儀を身につけた。「つなぐ」とか「絆」とはこうしたものだと思う。「明治大学の学生は・・」たった一人の行いが、良くも悪くも「すべての明大生のイメージ」へと世に伝わる『過度の一般化』行動や発言、商品やサービス、社員や経営者、家族一人がすべてのイメージに。自己規制と努力は「宿無しの学生」の節約旅行で身に付いたのかもしれない。話は違うが、魚沼は誰一人知らない土地だった。それが顧問を授かり、会報で「学生時代の思い出」の第一回を書くことになったのも同窓明治大学卒のお陰だ。

リバティータワーの正面にある第二期寄付者名盤の千葉県個人欄にわが名を残し、廃部になったが民謡研究会の名も刻んである。上京して時間があると本校へ立ち寄り、若い学生の姿を見て、当時のわが身を振り返る。それこそ至福の時だ。たまに「明治の卒業生ですか?」と尋ねられ、顧問の名刺を示し、学生の質問に答えてリフレッシュできるのも皆さんからの恩恵なのだ。

伝統呉服と最新のアパレル店舗を全国展開
株式会社 二葉屋
TEL 025-773-3008

石打丸山スキー場山頂レストラン
レストハウス シュプール
TEL 025-783-3231

タイル・土壁・漆喰
合資会社 長亀商店
TEL 025-792-0335

アルバイト急募
セブン-イレブン中越塩沢町店
TEL 025-782-5052